

つたえる、感じる、つながる
令和2年度
森林×SDGsプロジェクト事業

事業概要-全体報告
2021年3月3日

株式会社 かいほつマネジメント・コン
サルティング
一般社団法人 森と未来

事業概要

【事業期間】

2020年8月-2021年3月

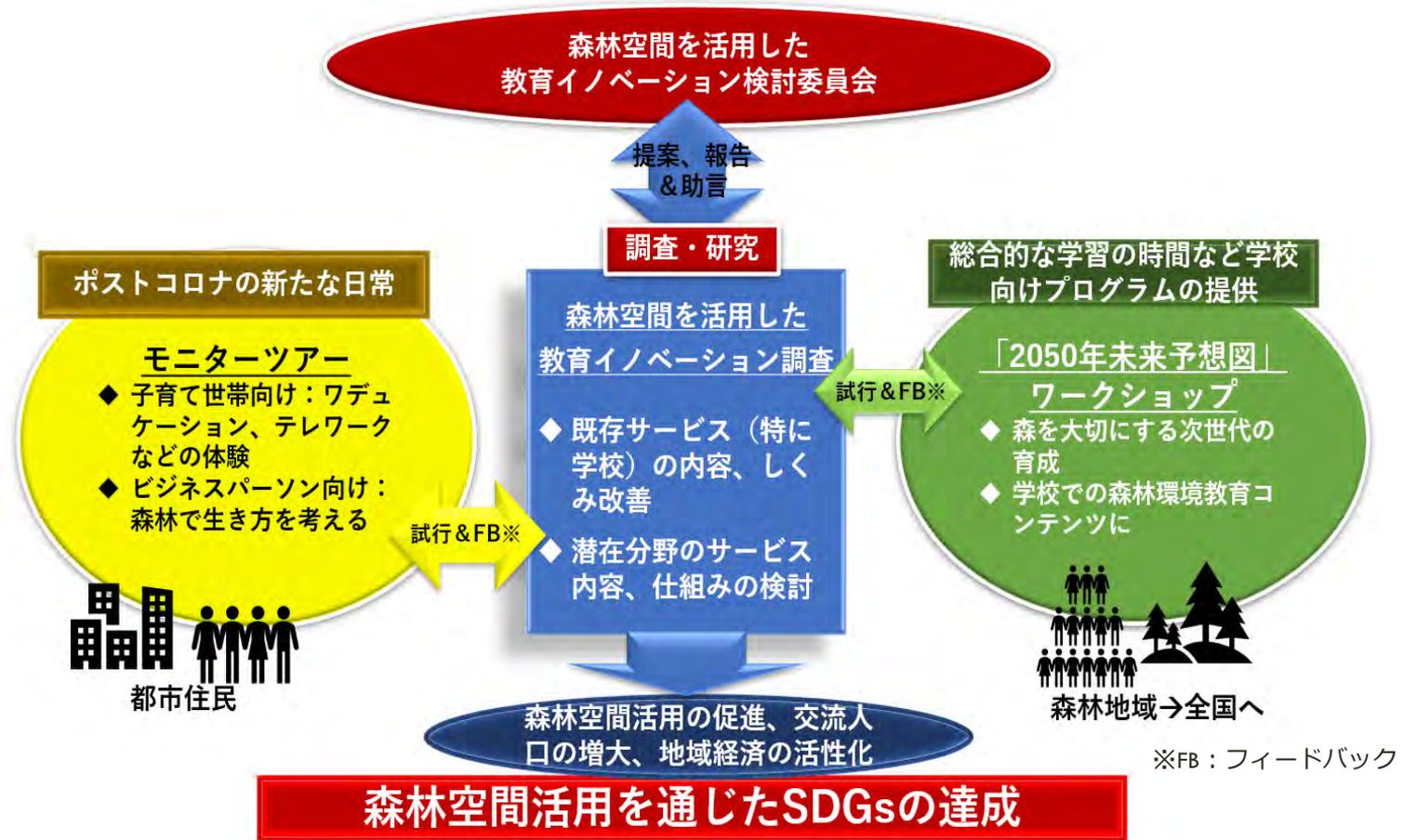
【目的】

- 森林空間を活用した自然保育や学校教育、企業研修等、様々な「教育」にかかる現状、ニーズ、課題を調査し、今後の森林環境教育の推進に向けた新たな方向性を検討する。

→ 教育イノベーション調査（本発表）

- これまで森林と関わりの少なかった都市住民や未来の社会の中核を担う中学生・高校生に対して、前者に対し森林の新たな楽しみ方を提案し、後者とは未来予想図を作成する事業を実施、対外的に発信することにより、これら対象層の森林に対する理解・関心を高める。

→ ワークショップ、モニターツアー



森林空間を活用した教育イノベーション検討委員会

● **目的**：森林空間を活用した自然保育や学校教育、企業研修等様々な「教育」にかかる現状、ニーズ、課題を調査し、具体的な政策パッケージとして整理を行い、今後の森林環境教育の推進に向けた新たな方向性を検討する。

● **開催**：3回

- 第1回（9月4日）：事業方針の検討
- 第2回（12月3日）：中間報告
- 第3回（2月9日）：報告書内容検討

属性	氏名	所属・役職等（令和2年9月4日現在）
座長	宮林 茂幸	東京農業大学地域環境科学部 地域創成科学科教授 美しい森林づくり全国推進会議 事務局長
委員	天笠 茂	千葉大学特任教授 中央教育審議会副会長
委員	指出 一正	「ソトコト」編集長
委員	島田 由香	ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス株式会社 取締役人事総務本部長
委員	竹内 延彦	長野県池田町教育長 森と自然の育ちと学び自治体ネットワーク副代表
委員	南方 慎治	株式会社ルネサンス 営業企画部トラベルチーム課長
委員	山下 宏文	京都教育大学教授 元 森林ESD研究会座長
委員	吉弘 拓生	内閣官房地域活性化伝道師 総務省地域力創造アドバイザー

森林空間を活用した教育イノベーション調査

- 目的：SDGs 時代に対応する森林空間を活用した教育イノベーションの可能性を探る。
- 方法：先進的な森林体験や森林環境教育を提供している事業者や関係者に対する遠隔インデプスイントビュー※（対象者30人）+文献調査+補完的な顧客アンケート

※対象者と調査者が一対一で対話する、定性調査の代表的なインタビュー手法。

本事業が目指す森林環境教育と森林体験の位置付け



【問題意識】

行政・学校・地域の連携がなく、学校内外及び子どもの各発達段階に応じた個別の取組が有機的に繋がっていないのではないか。

発達段階に応じた 森林環境教育の現状

- 幼児向け：森のようちえんの人気は高まっているが、供給不足がボトルネック。
- 青少年向け：学校での森林環境教育は授業枠の確保が課題。特に小学校高学年以降、塾や部活で子供は多忙、森林環境教育の空白期間に。
- 社会人向け：黎明期、市場は小さい。経営者向けリトリートなどサービスは多様化。

対象者	短期、単発、訪問型体験		長期、継続、定住型体験	
	サービス内容	実施期間	サービス内容	実施期間
幼児	各種団体、企業が企画する森のようちえんイベント	数時間～1日程度。	森のようちえん	通年。週4～5日の保育
小学生	各種団体、企業が企画する森の学童保育イベント	半日から1日程度。	各種団体、企業が企画する森の学童保育でコース型のもの	数時間～1日、週1～月1回程度
	学校での森林体験イベント（校外学習や林間学校など）	1, 2時間～半日程度。林間学校は1～2泊。	学校での森林体験（森林での教科学習や総合的な時間を利用した森林体験・学習など複数回にわたるもの）	1, 2時間～1日程度を数回～。
	学校以外の組織が企画する森林体験イベント	1, 3時間～半日程度。	学校以外の組織が企画する複数回にわたる森林体験	1時間～1日程度を数回～。定期開催も。
	各種団体、企業が企画するサマーキャンプ	1～2泊程度。最大30泊まで。	山村留学	転校前提で1年間。
中高生	学校での森林体験（登山・林間学校・教育旅行など）	1～2日程度。教育旅行は2～3泊（うちの半日から1日程度）。	学校での森林体験（森林での教科学習や総合的な時間を利用した森林体験・学習など複数回にわたるもの）	1, 2時間～1日程度を数回～。
	学校以外の組織が企画する森林体験イベント	1, 3時間～半日程度。不定期開催が多い。	学校以外の組織が企画する複数回にわたる森林体験	1時間～1日程度を数回～。定期開催も。
成人向け	森林での社員研修・CSR活動	1～数泊程度		
	森林でのエクゼクティブリトリート	1～数泊程度		
	森林でのキャンピングオフィス	数時間～数泊程度	森林でのサテライトオフィス	常設型

学校を中心とした各種組織が実施

学校以外の組織が実施

新しい試みと機会

- 教員の負担軽減
- 森林で教科学習を行う工夫
- 地場産業やキャリア教育との連携
- 自然学校との連携
- 地域学校協働活動など地域との連携
- 社会課題解決型の部活動の推進

事例②
ホールアース福島校

学校の枠内



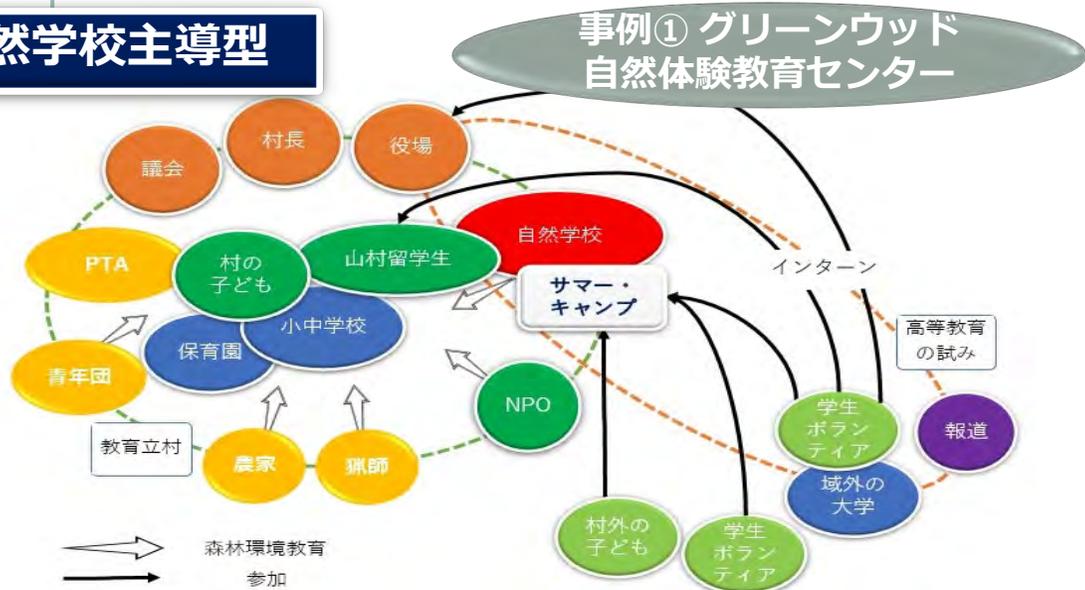
- ライト層や別関心層に向けたプログラムの提供
- 顧客の不安に寄り添い、満足度を高める対応
- 長期キャンプなど多様なプログラムの提供
- 森林を利用したキャンピングオフィスやリトリート、研修サービスの認知拡大
- 教育を軸とした移住振興とコミュニティーづくり
- 地域間連携を軸とした都市部の子供たちへの森林環境教育の提供
- オンラインでの実施などデジタル技術の活用

学校の枠外

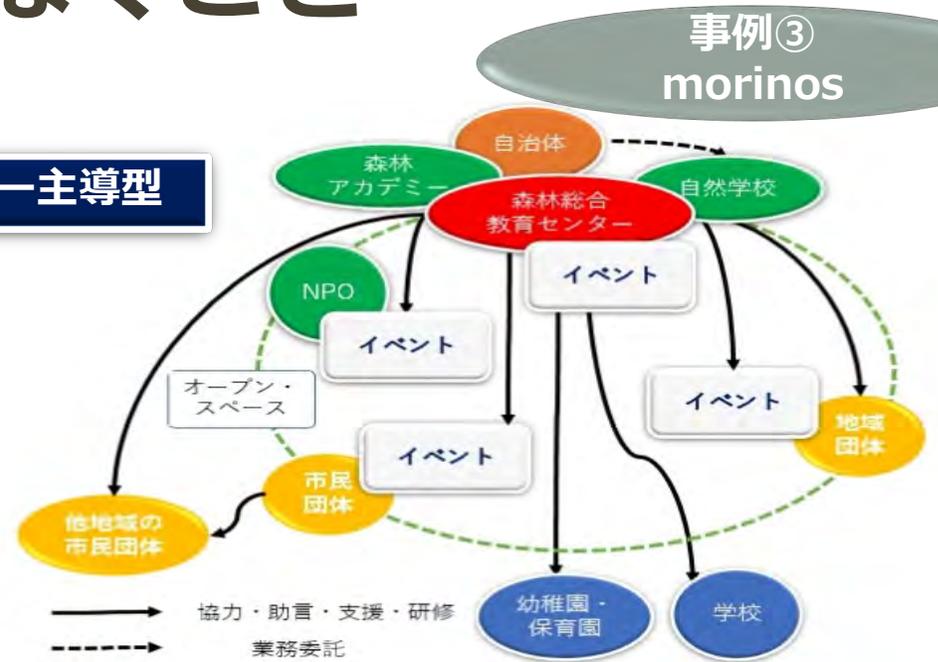


森林環境教育を有機的につなぐことに成功しているパターン

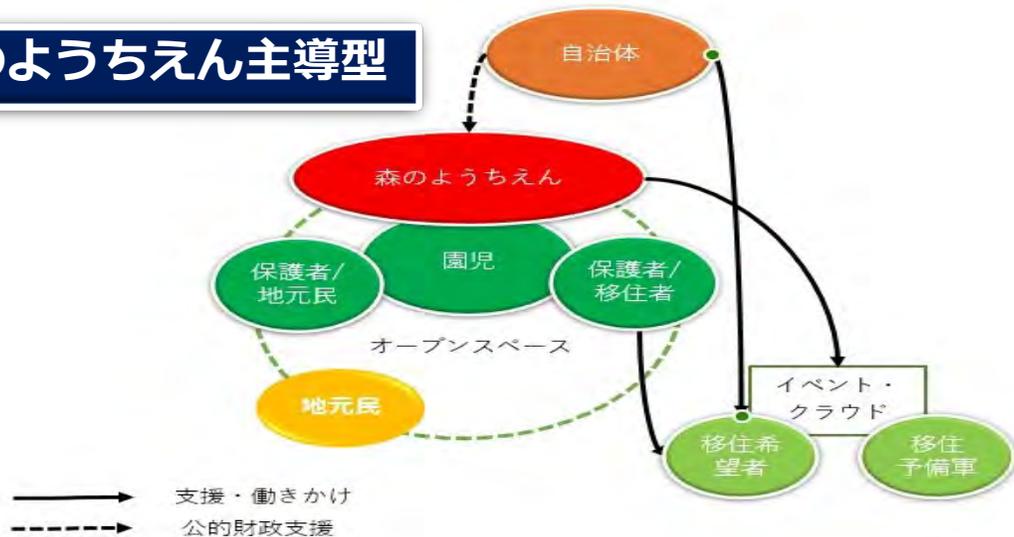
自然学校主導型



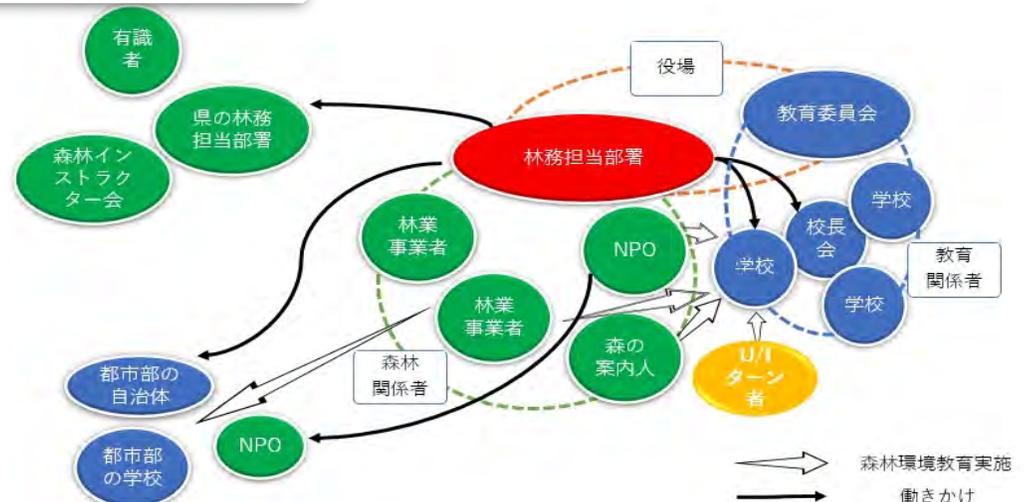
公的セクター主導型



森のようちえん主導型



地場林産業主導型



連携体制を築き、持続させるためのキーポイント

つながる

- 1) **相手の目的・立場に立って**考え、課題を聞き、対処する。
- 2) 人と人をつなげる**人を育て**、人と人がつながる**場を作る**。
- 3) 市民参加も含め、**柔軟に**プログラムを企画・運営する。
- 4) **政策**に積極的に関与する。
- 5) 民間と行政の**マインドの違い**を理解する。
- 6) 行政内の異なる**部署の役割**を知り、柔軟に連携する。

続ける

- 1) **継続的に関与し続ける人**、熱量を持ったアクターを育てる。
- 2) 行政の**異動に効果的に対処**する。
- 3) 森林環境教育提供者がつながって**定期的に情報を共有**する。
- 4) **活動資金**を継続的に確保する。
- 5) **特定の人に我慢させない**仕組みを作る。
- 6) 学びを支える**人の循環**を生み出す。
- 7) **地域に根差す**。